

たはら歴史探訪クラブ

その11

幕末の異国船対策(二)

さて、昨春秋に田原町博物館で「発掘された日本列島2001」という展覧会を催しましたが、そこに珍しい資料の展示がありました。それは山口県萩市で発掘された幕末の大砲・砲弾鋳型です。萩は幕末に活躍した長州藩の城があったところですが、当時、長州藩も田原藩と同様に藩士が高島流砲術を習っており、異国への恐怖からその対策を進めていました。長州藩の大砲製作は古文書で知られていましたが、この鋳型はそれを証明する具体的な資料として、昨年たいへん注目を集めました。この大砲鋳型は、長州藩の軍需工場とも言うべきところで出土したものです。

ません。したがって、全国的に見ても数えるほどしかない珍品中の珍品と言えます。

実は、この珍品が田原にもありました。田原に残されているのは大砲の砲弾とその鋳型です。

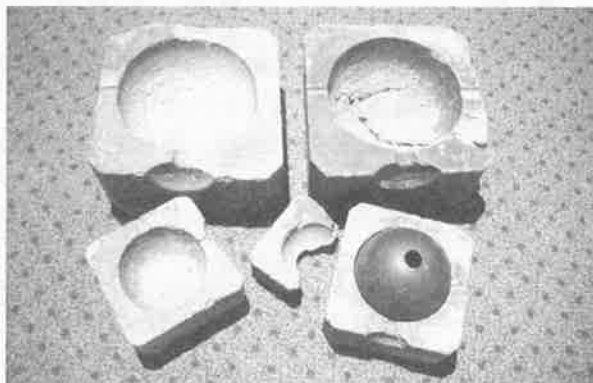
これは伊奈森太郎(一八八三～一九六一 郷土教育者 大久保出身)が明治44年に発見したものです。この鋳型は、なんと旧田原藩士宅で鶏の水飲み用の器に使われていました。優れた郷土史家であった伊奈はこれを見逃しませんでした。伊奈はこの鋳型を譲り受け、さらに他の藩士宅にあったものと併せて、田原中部小学校に保管していたのです。

鋳型はそれぞれ径18・4cm、12・1cm、10・4cm、8cmの砲弾用のもので、全部で5個あります。砲弾は鉄製で直径約11cm、重さ2・85kg、落ちたときに中の火薬が爆発する仕掛けとなっています。

田原藩が幕末に異国船対策を講じたことを証明する史料としては、大砲の鋳造や訓練、砲台・遠見番所・のろし台など海防施設の築造が記されている藩の古文書などがありません。これらの史料により海防施設の位置は推定できるものの、その跡と認識できる遺跡は

発見されていません。残念ながら文字としての記録のみが残されているだけです。そうした意味で、この鋳型は田原藩の取り組みを証明する具体的な資料となります。また全国的に数少ない「お宝」としても貴重なものです。伊奈森太郎が注意を払っていたおかげで、こんな貴重な資料を残すことができたのです。

これらの資料は、博物館の常設展示室で見ることが出来ます。



●田原町博物館に展示される砲弾と鋳型

今月の表紙

自分のことは好きですか？

世に言う「ナルシスト」ってどんな人でしょう。自己陶醉者？うぬぼれ屋？独善者？…。ともかく、あまり良い意味ではなさそうですね。

ただし、自分のことが好きな人とナルシストは同義ではありません。なぜなら、自分を好きでなければ、自分を信じることができなければ、本気で人を好きになつたり、何かを成し遂げたりすることはできないはずだからです。

ナルシストの語源となったギリシヤ神話の登場人物ナルキッソスは、泉に映った我の姿のみを愛して、他者を愛することなく身を滅ぼしてしまいました。彼が滅んだ跡には一輪の花が咲いたと言います。

水仙、学名ナルキッソス。その花は気高く美しい。そして悲しい。

【人口と世帯数】

総人口	36,863人
男性	18,799人
女性	18,064人
世帯数	11,451世帯
出生	24人
死亡	32人
転入	71人
転出	77人
増減	-14人

(平成14年1月1日現在・増減は12月中)

【行政面積】 82.86km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)

広報たはらは、森林資源保護のため再生紙(古紙配合率100%・白色度70%)を使用しています。

▽田原町博物館 22局1720